

[論文]

## チャータード銀行ロンドン本店関係計算書類について

On the accounting documents of the Head Office of the Chartered Bank of India,  
Australia and China

北 林 雅 志

### はじめに

近年アジア地域に進出したイギリス系国際銀行に関する研究は、大きな進展を見せている。その代表的な著作として、『国際銀行とアジア』<sup>1)</sup>をはじめ、『*The Origins of International Banking in Asia*』<sup>2)</sup>、『*Asian Imperial Banking History*』<sup>3)</sup>などを挙げることができる。これら先行研究は、各銀行の行内史料の丹念な分析に基づいて、イギリス系国際銀行のみならず、フランス、ドイツ、ロシア、日本の国際銀行との比較を通して、アジアにおける国際銀行の為替業務をはじめとする具体的な業務内容について解明してきた。本稿では、これら先行研究の業績に依拠しつつ、イギリス系国際銀行の一つであるチャータード銀行に焦点を当て、ロンドン本店の基礎史料である計算書類について、その内容とそこから読み取ることのできる活動実態について解明することを課題としている。チャータード銀行に関する研究は、これまで主にアジアに展開されていた支店関係の行内史料を中心に進められてきたが、ロンドン本店関係の史料については、「ギルドホール図書館所蔵のチャータード銀行B/Sが1899年6月のものしか見当たらず……」<sup>4)</sup>と指摘されているように、検討することすらできない状態であった。しかし、ロンドン本店関係の史料は、現在ロンドン・メトロポリタン・アーカイブス(London Metropolitan Archives)において公開が進められつつある。為替業務を主たる活動内容とするイギリス系国際銀行に関する研究において、ロンドン本店の業務実態の解明は重要である。国際金融市場として機能するロンドンにおける業務内容の把握は、本支店間取引を通して銀行総体としての活動実態にアプローチできるからである。ロンドン本店関係の主な計算書類は、1)本店と各支店の貸借対照表を統合したGeneral Balance Sheet、2)ロンドン本店の貸借対照表である

Balance Sheet of the Head Office、3)ロンドン本店の損益計算書Profit and Loss Account of the Head Officeと4)本支店勘定をまとめて表示したStatement of the Balances between the Head Office and the Agencies, and between the Agencies Themselvesという4つの計算書類を中心に、その付属書類から構成されている。本稿では、これら計算書類と『バンカーズ・マガジン』誌(*The Banker's Magazine*)や『エコノミスト』誌(*The Economist*)に掲載される公表B/Sとの関係、また本支店勘定の分析を通して本店計算書類と支店計算書類の関係について説明を試みる。また、これら計算書類の勘定科目は時とともに大きく変化している。それぞれの勘定科目の変更点と、その意味するものについても言及することにした。

本稿で使用するチャータード銀行の行内史料は、すべてロンドン・メトロポリタン・アーカイブスに所蔵されており、本店関係資料番号はCLC/B/207/CH04/05/03/MS38430である。

### 1. 創業期におけるチャータード銀行ロンドン本店計算書類

まずチャータード銀行創業期のロンドン本店の活動を、本店計算書類によって確認することから始めよう。チャータード銀行は1853年12月王室特許状により設立が認められたが、株式の払い込みが特許状の定める要件を満たすことができず、営業を開始したのは1858年であった<sup>5)</sup>。表-1は『バンカーズ・マガジン』誌に掲載されているチャータード銀行の1861年末の貸借対照表(以下B/Sと略)である。見られるように創業期の公表B/Sは非常に簡略化されており、ここからは活動実態をとらえることは困難である。そこでこの公表B/Sがどのような過程を経て作成されたのか、本店関係計算書類ならびに支店関係の計算書類を検討することによって明らか

表-1 チャータード銀行公表 B/S (1861 年末) 単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

Liabilities		Assets	
Capital	644,000	Cash and cash at bankers	505,863
Reserved surplus fund	10,000	Government securities	141,854
Bills payable, money deposited, current accounts and others	2,114,512	Other securities, consisting of bills receivable and loans	2,133,713
Profit and loss	22,967	Agency premises and office furniture	10,047
Total	2,791,479	Total	2,791,479

*The Bankers' Magazine*, June 1862, p.369.

にしよう。

### (1) 1861 年末の貸借対照表の検討

表-2 の 1861 年末 General Balance Sheet (以下 GB と略) の検討から始めよう。これは本店 B/S と各支店 B/S を統合したものであり、Total の金額を見ると、公表 B/S と同じ金額 (2,791,479 ポンド) となっている。この GB によって、この時期のチャータード銀行の活動の実態を総体として大まかに把握することができる。負債の部の最大の科目を成しているのは、ロンドン本店の Bills Payable (1,711,640 ポンド) で、およそ負債の部の 6 割を占めている。また資産の部では同じくロンドン本店の Bills Receivable (1,145,223 ポンド) が、およそ 4 割を占めている。負債総額、資産総額に占めるロンドン本店の割合が圧倒的に大きいことがわかる。しかし Bills Payable また Bills Receivable も、ともに為替取引にかかわる勘定科目であって、ロンドン本店のみで取り扱うことができない業務であることは当然である。これら為替取引はアジアに展開する支店があって、はじめて営むことのできる業務である。そのことをロンドン本店の B/S によって確認しておこう。表-3 は 1861 年末のロンドン本店のみの B/S である。このロンドン本店 B/S においても、その多くは、Bills Payable と Bills Receivable であることがわかる。GB では Bills Payable, Bills Receivable として一括されていた科目を構成する内容が、ロンドン本店 B/S では二つの科目に分けて表記されている。Bills Payable の大きな部分を占めているのは、City Bank Acceptances (1,460,461 ポンド) であり、Bills Receivable においても、その多くは City Bank Bill a/c (1,053,706 ポンド) であることがわかる。この科目名に見られる City Bank とは、チャータード銀行のロンドンの取引銀行である<sup>6)</sup>。しかしチャータード銀行の B/S に見られる科目名からは、この科目で処理される手形がどのようなものか、にわかに判断することはできない。そこで参考になるのが、この当時チャータード銀行と並んで

ヨーロッパ・アジア間の為替取引を主として行っていたチャータード・マーカンタイル銀行 (以下マーカンタイル銀行と略) の計算書類である<sup>7)</sup>。

マーカンタイル銀行の計算書類は、大きく二つの計算書類から構成されている。一つは Liabilities of the Chartered Mercantile Bank, 及び Assets of the Chartered Mercantile Bank という表題のある、本店と支店の資産と負債を一覧表にした計算書類 (表-4) と、本支店勘定を一覧表にした Nominal Account Balances (表-5) である。まず本支店の資産と負債を一覧表にした表-4 から見ていこう。負債の部における最大の科目は、ロンドン本店の勘定である London Joint Stock Bank (以下 LJS Bank と略) Indian Draft a/c (2,010,295 ポンド) である。資産の部の科目では Bills Receivable の 1,434,587 ポンドが最も大きな科目となっており、LJS Bank Deposit Bill Account の 1,272,898 ポンドがつづいている。しかしロンドン本店を見ると、その最大の科目は LJS Bank Deposit Bill Account であり、Bills Receivable を上回っている。

このマーカンタイル銀行ロンドン本店の負債の部および資産の部の最大の科目を、先に見たチャータード銀行ロンドン本店の勘定科目と比較してみると、チャータード銀行の負債の部の City Bank Acceptances に相当するのが LJS Bank Indian Draft a/c であり、資産の部の City Bank Bill a/c に相当するのが LJS Bank Deposit Bill a/c であると見ることができる。それでは、これら勘定科目によって処理される取引とは、どのようなものなのか。この点について大いに参考になるのが、マーカンタイル銀行の本支店勘定を一覧表にまとめた Nominal Account Balances (表-5) である。

マーカンタイル銀行ロンドン本店負債の部の最大の科目は LJS Bank Indian Draft a/c であった。これは Nominal Account Balances の貸方にある支店勘定 (Branches) の Drafts on London とみなすことができる。この科目名から見て取れるように、アジア

表-2 チャータード銀行 General Balance Sheet (1861年末)

単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

Liabilities				Assets			
Capital			644,000	Cash & Bullion in hand	Head Office	96	
Reserved Surplus Fund			10,000		Bombay	52,902	
Bank Notes in circulation	Singapore		20,216		Calcutta	29,523	
Deposit Receipts	Head Office	19,950			Shanghai	43,371	
	Bombay	27,925			Singapore	27,551	
	Calcutta	4,174			Hongkong	69,426	222,872
	Singapore	15,726					
	Hongkong	23,862	91,638	Cash at Bankers	Head Office	214,158	
Current Deposit Accounts	Head Office	3,520			Bombay	16,930	
	Bombay	48,773			Calcutta	38,663	
	Calcutta	8,453			Singapore	14,139	282,991
	Shanghai	4,892		Government Securities	Head Office		141,854
	Singapore	46,276					
	Hongkong	22,293	134,209	Local bills Discounted	Bombay	39,166	
Deposit Notes	Head Office		6,270		Calcutta	1,596	
					Shanghai	16,500	
					Singapore	128,460	
					Hongkong	38,108	223,832
Bills Payable	Head Office	1,711,640		Bills Recievable	Head Office	1,145,223	
	Bombay	26,455			Bombay	49,596	
	Calcutta	31,446			Calcutta	47,013	
	Singapore	112			Shanghai	25,796	
	Hongkong	37,586	1,807,241		Singapore	2,188	
					Hongkong	54,185	1,324,005
Bills Received for Collection	Head Office	799		Past due Bills	Bombay	12,288	
	Bombay	486			Calcutta	351	
	Calcutta	359			Hongkong	465	13,104
	Singapore	1,626			Head Office		2,029
	Hongkong	386	3,657	Unaccepted Bills			
Margins on Bills	Head Office		1,542				
Agency Post Bills	Bombay	453		Current Deposit a/c overdrafts	Bombay	4,476	
	Singapore	2,938	3,391		Calcutta	1	
					Shanghai	2,035	
Other accounts			46,338		Singapore	33	
					Hongkong	38,028	44,575
P & L account				Fixed Loans	Bombay	77,054	
	Head Office undivided	5,425			Calcutta	120,723	
	Head Office half year profits	11,845			Shanghai	37,115	
	Bombay	4,245			Hongkong	50,040	284,933
	Calcutta	3,102		Cash Credit a/c	Calcutta		2,300
	Singapore	4,371		Bank Premises at Shanghai			8,499
	Hongkong	2,286		Office Furniture			1,548
	Less loss at Shanghai	-8,309	22,967	Other accounts			53,511
				Branche Balances with Head Office & each other			185,416
Total			2,791,479	Total			2,791,479

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly head office balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/03/MS 38430

支店がロンドン払いの手形（その多くは LJS Bank 宛）を振り出し、ロンドンへの送金手段として利用する顧客に売りに出したものである。とすればチャータード銀行ロンドン本店の負債の部に記帳されている City Bank Acceptances および Bills Payable も同様の手形を処理する科目とみなすことができる<sup>8)</sup>。

マーカントイル銀行ロンドン本店資産の部の最大の科目であった LJS Bank Deposit Bill a/c については、Nominal Account Balances 借方支店勘定にある

Bills remitted to London に該当すると考えることができる。これはアジア支店が買い取ったロンドン払いのポンド手形である。この手形を受け取ったロンドン本店は、その多くを先に見たアジア支店が LJS Bank 宛に振出すポンド手形の担保として、ロンドン本店によって LJS Bank に預け入れられた手形とみなすことができる。このマーカントイル銀行の記帳処理を参考にすると、チャータード銀行の資産の部の最大の科目である City Bank Bill a/c も、同様の取引を記帳する科目と見ることができよう。すなわ

表-3 チャータード銀行ロンドン本店 B/S (1861 年末)

単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

Liabilities			Assets			
Capital		644,000	City Bank Current a/c		4,864	
Reserved Surplus Fund		10,000	do Deposit Cheque a/c		393	
City Bank Acceptances	1,460,461		do Deposit Account		206,000	
Bills Payable	251,179	1,711,640	do 6th Dividend		142	
			Bank of England Current a/c		2,758	214,158
Deposit Receipts		19,950	City Bank Bill a/c		1,053,706	
Deposit Notes		6,270	Bills Receivable		91,516	1,145,223
Current Deposit a/c		3,520	Unaccepted Bills			2,029
			Government Securities			141,854
Singapore Exchange a/c		18,497	Bombay	Capital a/c		100,000
				Exchange a/c		99,209
				Rupee a/c		57,509
				Bullion a/c		11,560
				Continuous Credit a/c		15,037
			Calcutta	Capital a/c		100,000
				Exchange a/c		40,209
				Rupee a/c		38,730
				Continuous Credit a/c		113,908
			Shanghai	Capital a/c		100,000
				Exchange a/c		12,125
				Tael a/c		9,474
			Singapore	Capital a/c		100,000
				Dollar a/c		21,548
			Hongkong	Capital a/c		50,000
				Exchange a/c		20,035
				Dollar a/c		21,519
			Madras	rupee a/c		464
Others		3,583	Others			15,975
P&L			Adjusting a/c of Interest			4,153
Balance of Profits from 29th June	5,425					
Profit for the Half year	11,845	17,270				
Total		2,434,730	Total			2,434,730

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly head office balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/03/MS 38430

ちチャータード銀行のアジア支店が買い取り、ロンドン本店に送付してきたポンド手形を、アジア支店が City Bank 宛に振出す手形の担保として City Bank に預け入れている手形と見ることができる。

## (2) 本支店勘定科目の検討

チャータード銀行ロンドン本店 B/S (表-3) で説明を要するのは、為替銀行特有の本支店間取引を記帳する為替勘定科目である。その多くは資産の部に計上されており、負債の部にはシンガポール支店の為替勘定 (Singapore Exchange Account) のみが計

上されている。これら本支店間取引にかかわる勘定科目を理解するうえで、参考になる計算書類が残されている。それが表-6 の Statement of the Balances between the Head Office and the Agencies, and between the Agencies Themselves, as in the respective Balance Sheets (本支店勘定一覧表) である。この一覧表は、表題にも示されているように、ロンドン本店および各支店が作成した B/S から、本支店間、および支店相互間の債権債務を記帳する勘定科目を抜き出して一覧表にまとめたものである。

表-4 マーカントイル銀行資産負債表 (1861年末)

単位：英ポンド (ポンド未満切り捨て)

	Liabilities			Assets			
	London	Branches	Total		London	Branches	Total
Capital	500,000		500,000	Cash at Bankers	12,160	122,330	134,490
Reserve Fund	50,000		50,000	Cash in hand	1,154	599,499	600,653
LJS Bank Indian Draft a/c	2,010,295		2,010,295	Bullion a/c		340,391	340,391
Bills Payable	218,700	337,746	556,446	Government Securities	22,028	91,897	113,925
Current Deposit a/c	22,394	853,988	876,382	Bills Receivable	908,074	526,513	1,434,587
Fixed Deposit	78,233	627,889	706,122	LJS Bank Deposit Bill a/c	1,272,898		1,272,898
Notes in Circulation		228,658	228,658	Local Bills discounted		676,987	676,987
Profit & Loss a/c	35,040			Loan a/c	130,933	128,049	258,982
				Overdrawn Ballances	2,289	103,342	105,631
Total with others	2,946,637	2,241,022	5,187,659	Total with others	2,420,175	2,767,481	5,187,659

出所：HSBC Group Archives, MBH 2368, Statements of General Balance

表-5 マーカントイル銀行 Nominal Account Balances (1861年末)

単位：英ポンド (ポンド未満切り捨て)

	Dr.				Cr.			
	London	Branches	Total		London	Branches	Total	
Capital	500,000			Branch Capital a/c		500,000		
Bills remitted to London		2,728,883		Bills for Collection	2,728,883	526,513		
Do. to Branches	132,615	393,897		Drafts on London		2,198,626		
Acceptance a/c	2,198,626	336,432		Drafts on Branches	168,660	167,772		
Transfer Drafts remitted to London		1,168,412		Transfer Drafts Receivable	1,168,412	86,907		
Do. to Branches	2,000	84,907		Transfer Drafts on London		1,266,760		
Transfer Drafts Payable	1,266,760	106,569		Do. Branches	5,000	101,569		
Exchange Operations				Exchange Operations				
London		32,707		London		25,858		
Branches	369,245	76,196		Branches	22,218	215,328		
Cash Account				Cash Account				
London		22,218		London		369,246		
Branches	25,858	215,328		Branches	32,707	76,196		
Total	4,652,340	5,294,363	9,946,703	Total	4,125,881	5,820,822	9,946,703	

出所：HSBC Group Archives, MBH 2368, Statements of General Balances

表の中央に Bombay Capital a/c with the Head Office 以下、各勘定科目名が記載されている。表の左側には本店および支店 B/S における負債 (Liabilities as in Balance Sheets) が、右側には資産 (Assets as in Balance Sheets) がそれぞれ記帳されている。最上部に記載されているのが、資本金勘定 (Bombay Capital a/c with Head Office 以下) である。これを見ると、右側資産の部の Head Office にボンベイ支店からシンガポール支店まで 10 万ポンド、香港支店には 5 万ポンドと記帳されている。左側の負債の部には各支店の列に同額の記載がある。合計欄には同じ金額が記帳され、資産の部と負債の部の金額が同額となっている。1861 年末のチャータード銀行払込資本金 644,000 ポンドのうち、45 万ポンドがアジア支店に配分されていたことがわかる。

資本金勘定に続いて記載されているのは、ボンベ

イ支店から香港支店までの London Exchange Account である。ボンベイ支店の London Exchange Account を見ると、右側資産の部の Head Office の列に 99,209 ポンドが記帳されている。これは先に見たロンドン本店 B/S 資産の部の Bombay Exchange Account に、同額の 99,209 ポンドが記帳されているからである。本支店勘定一覧表に戻り左側負債の部のボンベイ支店の列を見ると、そこには 3,373 ポンドが記帳されている。そこでボンベイ支店の B/S (表-7) によって確認すると、負債の部の London Exchange Account に同額の 3,373 ポンドの記帳が見られる。本支店勘定であるならば、先に見た資本金勘定のように本店と支店の債権債務は本来的には相殺されなければならない。しかし London Exchange Account では、ロンドン本店資産の部に 99,209 ポンド記帳され、ボンベイ支店においては負債の部に 3,373 ポンドが記帳され



表-6 (つづき) 単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

Liabilities as in Balance Sheets							Assets as in Balance Sheets									
Names of the Head Office and Agency Accounts																
Head Office	Bombay	Calcutta	Shanghai	Singapore	Hongkong	Total	Add to Liabilities									
	28,028		15,012		56,254	84,282	84,282	Hongkong Outward a/c with Bombay								
					51,401	51,401	47,067	Do with Calcutta	491	4,333						
					15,012	15,012		Do with Shanghai	1,123	15,503						15,503
	35,128					35,128	20,090	Do with Singapore		1,123					690	433
		78,225				78,225		Bombay Continuous Credit, Head Office		15,037						
		6,000				6,000		Calcutta do	35,682	113,908						
		227,894				227,894		Calcutta Government securities do	6,000	113,908						
18,497	256,682		189,994	130,168	248,617	1,071,854	243,773	Sub Total	423,492	1,251,573				63,449	51,237	58,295
								Bombay Profit								
								Calcutta Profit								
								Singapore Profit								
								Hongkong Profit								
								Shanghai Loss	5,696	5,696						
								Deduct the amounts opposite	-243,773	-1,071,854						
								Total	185,416	185,416						

出所 : London Metropolitan Archives. Half yearly head office balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/03/MS 38430

表-7 ボンベイ支店 B/S (1861 年末)

単位 英ポンド (未満切り捨て)

Liabilities		Assets	
Agency Capital	100,000	Cash	6,217
London Exchange a/c	3,373	Bullion	46,684
Head Office Exchnage a/c	52,669		
Outward a/c Calcutta	10,053	Outward a/c Singapore	3,854
Inward a/c Calcutta	1,961	Hongkong	109,398
Shanghai	1,401	Bank of Bombay	16,030
Singapore	3,028		
Hongkong	28,028		
Continuous Credit a/c	35,128		
Head Office Bullion a/c	21,037		
Union Bk of Australia	2,593		
Current Deposit a/c	48,773	Local Bills Discounted	39,166
Deposit Receipts	27,925	Current Deposit Overdrafts	4,476
		Fixed Loans	77,054
Bills Payble	26,455	Bills Receivable	49,596
Bills Received for Collction	486	Past Due Bills	12,288
Others	2,423	Others	571
Total	365,340		365,340

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly branch balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/02/MS 31519

ていて、債権債務の不一致が見られる。したがって、その差額 95,835 ポンドが、資産の部の左端 Add to Assets の列に記帳されるのである。

表-3 のロンドン本店 B/S において Exchange Account が、ただ一つ資産の部に計上されていたシンガポール支店を見ておこう。一覧表の右側資産の部の本店の列を見ると、シンガポール支店のみ空欄となっている。左側負債の部の本店の列を見ると、ロンドン本店 B/S に見られた 18,497 ポンドの記帳がある。シンガポール支店のみ Exchange Account が資産の部に計上されているからである。そこでシンガポール支店の B/S (表-8) を見ると資産の部の London Exchange Account に 30,560 ポンドが計上されている。これが一覧表の右側資産の部のシンガポール支店の列に記帳されている 30,560 ポンドである。したがってその差額 12,063 ポンドが、資産の部の左端にある Add to Assets に記帳されるのである。この London Exchange Account において、少し変則的な記帳になっているのが香港支店と上海支店である。香港支店を取り上げてみていこう。Hongkong London Exchange a/c の資産の部の行を見ると、本店に 20,035 ポンド、同じく Hongkong にも 36,577 ポンドが計上されており、左の負債の部は空欄になっている。ロンドン本店 B/S を見ると Hongkong Exchange Account は資産の部に同額の 20,035 ポンドが計上されている。また香港支店

の B/S (表-9) を見ても、London Exchange Account は資産の部に一覧表と同額の 36,577 ポンド記帳されているのである。債権債務の相殺どころか、両店ともに B/S では、債権として記帳されており、Add to Assets にその合計額 56,612 ポンドが計上されるのである。このようなことが起こるからこそ、各店舗が作成した B/S を突き合わせた一覧表を作成する意味があったと思われる。

これら本支店間の債権債務の差額の処理については後ほど検討することにして、次の Bombay Rupee Account with Head Office 以下の科目の検討に移ろう。ここでもボンベイ支店を例にとってみていこう。Bombay Rupee Account の資産の部を見ると、本店の列に 57,509 ポンドが計上されている。これはロンドン本店 B/S の資産の部の Bombay Rupee Account に計上されている 57,509 ポンドである。一覧表の負債の部を見ると、ボンベイ支店の列に 52,669 ポンドの記載が見られる。これはボンベイ支店 B/S (表-7) 負債の部の Head Office Exchange Account に 52,669 ポンドが計上されているからである。ここでもロンドン本店とボンベイ支店の債権債務は一致していない。したがって、その差額の 4,840 ポンドが資産の側の Add to Assets に記帳されるのである。

ここでロンドン本店とアジアに展開する支店との本支店勘定を処理する主要な科目についてまとめて



表-8 シンガポール支店 B/S (1861 年末)

単位 銀ドル (ドル未満切り捨て), 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

Liabilities	銀ドル	英ポンド	Assets	銀ドル	英ポンド
Branch Capital	444,444	100,000	Cash	122,453	27,552
Head Office Exchange a/c	115,090	25,895	London Exchange a/c	135,826	30,560
Bombay Inward a/c	17,130	3,854	Bombay Outward a/c	7,973	1,794
Calcutta Outward a/c	1,456	328	Shanghai Outward a/c	15,066	3,390
Do Inward a/c	405	91	Hongkong Outward a/c	65,785	14,802
Mauritius Exchange a/c	52	12	Do Inward a/c	3,070	691
			Batavia Exchange a/c	4,739	1,066
Bank Notes from London	200,000	45,000	Bank Notes	200,000	45,000
Do issued	132,000	29,700	Bank Notes on hand	42,150	9,484
Balance with other banks	22,811	5,132	Balance with other banks	62,843	14,140
Bills Payable	500	113	Bills Receivable	9,728	2,189
Bills Received for Collection	7,228	1,626			
Agency Post Bills	13,060	2,939			
Deposit Receipts	69,895	15,726	Local Bills Discounted	570,937	128,461
Current Deposit a/c	205,672	46,276	Current a/c Overdrafts	150	34
Adjusting a/c	12,158	2,736	Office Furniture	1,181	266
Total	1,241,906	279,429	Total	1,241,906	279,429

出所: London Metropolitan Archives, Half yearly branch balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/02/MS 31519

おこう。ロンドン本店 B/S の本支店勘定は、ボンベイ支店を例にとると、Capital Account, Exchange Account, Rupee Account, Bullion Account そして Continuous Credit Account の 5 つの勘定からなっており、すべて本支店勘定一覧表に記載されている。一覧表を見ると、これら本店の勘定科目と支店 B/S における勘定科目を対比してみることができる。すなわちロンドン本店の Bombay Exchange Account はボンベイ支店では London Exchange Account が対応しており、Bombay Rupee Account はボンベイ支店 B/S の Head Office Exchange Account が対応しているのである。

これら本支店間の勘定科目について、もう少し立ち入った検討をしておこう。為替勘定には自店が他店に勘定を開設する当方勘定（当座預金勘定ないしは当座貸越勘定）と、相手先が自店に開設する先方勘定とがある。当方勘定は、当方が先方に開設する勘定であるから、当然、相手先通貨建勘定（外貨建勘定）であり、先方勘定は相手先が当方に開設する勘定であるから、当方から見ると邦貨建勘定ということになる<sup>9)</sup>。これまで見てきたチャータード銀行の為替勘定を当方勘定、先方勘定という視点から整理してみると、ボンベイ支店の Head Office

Exchange Account に対応するロンドン本店の為替勘定は、Bombay Rupee Account であった。その他の支店を見ると、カルカッタ支店はボンベイ支店同様 Rupee Account となっているが、上海支店では Tael Account となっており、シンガポール支店、香港支店は Dollar Account となっている。ここから判断して、これら支店名の相手先通貨建勘定は、ロンドン本店から見ると当方勘定（外貨建勘定）とみなすことができる。それに対して、ロンドン本店 B/S に見られる各支店 Exchange Account は先方勘定（ポンド建勘定）であり、ボンベイ支店 B/S の London Exchange Account は、ボンベイ支店がロンドン本店に開設した勘定（当方勘定＝ポンド建）ということになる。したがって、表の中央に記載されている勘定科目である Bombay London Exchange Account with Head Office は、ボンベイ店から見ると当方勘定ということになる。また Bombay Rupee Account with Head Office は、ロンドン本店から見ると当方勘定ということになり、ともに当方勘定の視点からこの一覧表が作成されていることがわかる。この点は後述する支店間の勘定科目を見る際の参考になる。

一覧表 (表-6) に戻り、次の Bullion Account は地

表-9 香港支店 B/S (1861 年末)

単位 銀ドル (ドル未満切り捨て), 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

Liabilities	銀ドル	英ポンド	Assets	銀ドル	英ポンド
Branch Capital	222,222	50,000	Cash	285,120	64,152
Head Office Exchange a/c	108,080	24,319	London Exchange a/c	162,564	36,577
Bombay Outward a/c	250,018	56,254	Shanghai Outward a/c	68,906	15,503
Do Inward a/c	175,597	39,509	Do Inward a/c	25,695	5,781
Calcutta Outward a/c	228,450	51,401	Singapore Outward a/c	1,926	432
Do Inward a/c	65,230	14,676			
Singapore Inward a/c	55,360	12,456			
Bills Payable	167,049	37,586	Union Bk of Australia	123,943	27,887
Bills Received for Collection	1,715	386	Bullion	23,443	5,275
Deposit Receipts	106,054	23,862	Local Bills Discounted	169,369	38,108
Cuurent Deposit a/c	99,082	22,293	Bills Receivable	240,825	54,186
Insurance	1,111	250	Past Due Bills	2,067	465
			Current Deposit a/c Overdrafts	169,013	38,028
			Fixed Loans	222,400	50,040
Adjusting a/c	16,614	3,738	Office Furniture	1,320	297
Total	1,496,594	336,734		1,496,594	336,734

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly branch balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/02/MS 31519

金等の本支店間取引を処理する勘定科目である。資産の部の本店に 11,560 ポンド計上され、負債の部のボンベイ支店に 21,037 ポンド計上されている。本店からボンベイ支店に地金等の形態で資金の供給が行われていることが読み取れる。Bullion Account につづいて記載されているのは、各支店の Outward Account である。見られるように、ここには本店は出てこない。したがって、これらは支店間の債権債務を処理する勘定科目であることがわかる。Bombay Outward Account を取り上げて見ていこう。最初に記載されているのは、カルカッタ支店との支店間勘定 Bombay Outward Account with Calcutta である。資産の部のカルカッタ支店の列に 9,437 ポンド記帳されており、負債の部のボンベイ支店の列には 10,053 ポンドの記帳が見られる。そこでボンベイ支店の B/S (表-7) を確認してみると、負債の部の Outward Account Calcutta に 10,053 ポンド記帳されている。またカルカッタ支店 B/S (表-10) を見ると、資産の部の Inward account Bombay に 9,437 ポンドの記帳を確認できる。このことから、ボンベイ支店における Outward Account Calcutta は、カルカッタ支店における Inward Account Bombay に対応していることが見て取れる。すなわち、この支店間相互の勘定科目である Outward Account と Inward Account は、ロンドン

本店と支店との勘定科目を検討した際に指摘した、当方勘定、先方勘定なのである。そして、この一覧表に記載されている Outward Account は当方勘定とみなすことができ、したがって支店 B/S に見られた Inward Account は先方勘定ということになる。当方勘定、先方勘定であるとするならば、本来的にはその債権債務は相殺されるはずである。しかし、ボンベイ支店とカルカッタ支店の B/S では、その金額は一致しておらず、その差額 615 ポンドが一覧表負債の部の右端の Add to Liabilities に記帳されるのである。

それでは、これら本支店間および支店相互間の債権債務の不一致は、最終的にどのように処理されるのか、そのことを本支店勘定一覧表 (表-6) によって確認しておこう。資産の部の Add to Assets の列の Sub Total に 423,492 ポンドが記帳されており、支店の損益の合計 5,696 ポンド (ボンベイ、カルカッタ、シンガポールと香港支店の合計した利益から上海支店の損失を引いた金額) を加え、さらに負債の部の Add to Liabilities の合計 243,773 ポンドを差し引いた金額が 185,416 ポンドとなっている。これが本支店間の債権債務の不一致によって生じた最終的な金額である。この一覧表を作成する意味は、この不一致額の算出であつたいえる。この本支店間の債権債務の不一致となった金額は、本店および支店

表-10 カルカッタ支店 B/S (1861 年末) 単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

Liabilities		Assets	
Agency Capital	100,000	Cash	3,977
London Exchange a/c	18,923	Bullion	25,545
Head Office Exchange a/c	21,827		
		Outward a/c Bombay	6,651
		Singapore	79
		Hongkong	27,966
Inward a/c Shanghai	168	Inward a/c Bombay	9,437
Singapore	2,749	Hongkong	4,333
Continuous Credit a/c	78,225		
Head Office Govt Securities a/c	6,000	Bank of Bengal	38,659
London Chartered Bk Bullion a/c	20,404	Govt Notes	6,000
Current Deposit a/c	8,453	Local Bills Discounted	1,596
Deposit Receipts	4,174	Current Deposit a/c Overdrafts	1
		Fixed Loans	120,723
		Cash Credit a/c	2,300
Bills Payable	31,446	Bills Receivable	47,013
Bills Receivable for Collection	359	Past Due Bills	351
Others a/c	6,235	Others a/c	4,331
Total	298,972	Total	298,972

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly branch balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/02/MS 31519

が作成した B/S を統合した GB (表-2) 資産の部の最下段にある Branches Balance with Head Office and each other なる勘定科目に計上 (185,416 ポンド) されている。さらに公表 B/S では資産の部の Other securities, consisting of bills receivable and loans に統合されている。この本支店間、支店相互間の債権債務の不一致については、これまで検討してきた 1861 年末の公表 B/S では Bills Receivable に統合されていたが、1884 年末の公表 B/S からは独立した勘定科目 Balance between the head office and branches として表示されることになる<sup>10)</sup>。さらに、この勘定科目は、1908 年末公表 B/S において 2,501 ポンドを計上したのを最後に 1909 年末公表 B/S から姿を消すことになる。ひとまずロンドン本店計算書類を利用した貸借対照表にかかわる勘定科目の検討を終えて、次に損益計算にかかわる計算書類の検討に移ることにしよう。

### (3) 1861 年末損益計算書の検討

1861 年末の公表 B/S (表-1) において計上されているチャータード銀行の純利益は 22,967 ポンドであった。この公表純利益がどのように算出されるのか、ロンドン本店関係料によって確認することにしよう。まず GB (表-2) を見ると、この純利益の本支店ごとの損益が表示されている。ロンドン本店を

はじめとしてボンベイ、カルカッタ、シンガポールそして香港の各支店が利益を計上しており、上海支店のみが 8,309 ポンドの損失を計上している。本店における前期未処分利益 5,425 ポンドを加えた金額が純利益として 22,967 ポンドとなっており、これは先に見た公表 B/S における純利益と一致している。それでは各店舗の損益計算について、もう少し立ち入った検討を行うことにしよう。表-11 はロンドン本店の損益計算書である。ロンドン本店の収益で最も大きな金額を示しているのが、利子 (18,701 ポンド) である。この勘定科目には次のような注記が付されている、Balance of that Account (including £20,847 charged to Agencies, and £5,026 Balance of Adjusting Entries of Interest and Rebate on Drafts and Bills not yet due.)。この注記にみられるように、ロンドン本店の利子収入の多くの部分を占めているのが、支店に対する課金の 20,847 ポンドである。その内容について触れられていないので詳細は不明であるが、支店によるロンドン本店に対する債務 (その多くは London Exchange Account の借越金) に課されたものと考えられる。

それでは支店の損益構造について、本店と比較して検討しておこう。表-12 は、3,102 ポンドの利益を上げているカルカッタ支店の損益計算書である。

表-11 ロンドン本店損益計算書 (1861 年末)

単位 英ポンド (未満切り捨て)

Dr.					
Directors allowance		1,250	Undivided profits at 30th June		5,425
Brokerage paid		185	Adjusting a/c		2,568
General charges		1,248	Commission a/c		300
Office expenses		2,207	Transfer fees		14
Inspectorship		883	City Bank Commission a/c (Drfats cancelled)		51
			Interest a/c		18,701
Bullion loss a/c		6,404	Exchnage amount received		
Adjusting a/c		873	Bombay Rupee a/c	993	
			Calcutta Rupee a/c	2,101	
Balnce being profits			Shanghai Tael a/c	125	
Undivided at 30th June	5,425		Singapore Dollar a/c	11	
Profits	11,845	17,270	Hongkong Dollar a/c	29	3,261
Total		30,323	Total		30,323

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly head office balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/03/MS 38430

表-12 カルカッタ支店損益計算書 (1861 年末)

単位 ルピー (ルピー未満切り捨て), 英ポンド (未満切り捨て)

	ルピー		英ポンド		ルピー	英ポンド
Adjusting a/c at 29 June	3,819		381	Interest Received	48,818	4,881
Interest Paid	13,664		1,366	Discount	4,524	452
Discount	2,425		242	Exchange Received	189,111	18,911
Exchange Paid	139,895		13,989	Commission	18,662	1,866
Commission	5,501		550	Brokerage	18,524	1,852
Brokerage	21,663		2,166	Stamps	5	
Stamps	1,570		157			
Office Expenses	18,045		1,804	Charges Received	455	45
Charges	4,244		424	Government Securities	3,868	386
Past Due Bills	1,154		115	Adjusting a/c	15,511	1,551
Behn Meyer Co. claim	723		72			
Adjusting a/c	25,449		2,544			
Head Office Exchange a/cfor Interest charged			3,029			
Head Office Exchange a/c for the Balance transferred	61,320	6,132				
Less		-3,029	3,102			
Total	299,483		29,948		299,483	29,948

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly branch balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/02/MS 31519

この損益計算書を見ると、大きな構成要素を成しているのは利子、割引、為替や手数料などである。中でもロンドン本店とは異なり、最も大きな収益源となっているのは為替の18,911ポンドである。一方、支出を見ると、ここでも最も大きな金額を計上しているのは為替である。カルカッタ支店の収益構造の大きな部分を占めているのは為替であることがわかる。それでは、この為替取引に伴う利益はどのように算出されたのだろうか。その詳細を示した付属書類が残されている(表-13)。

まず外国為替取引の損益が、どのように算出されるのか確認しておこう。「外国為替売買益とは、外貨為替の売買損益のことをいう。外貨為替の売買損益とは、売却外貨為替の売却相場による邦貨換算額(受入邦貨額)と買入外貨為替の買入相場による邦貨換算額(支払邦貨額)の差額のことをいう。」<sup>1)</sup>この説明を念頭に置いて表-13を見ると、上段にあるExchange Receivedとは受入邦貨額であって、売為替であると判断できる。また下段のExchange Paidは支払邦貨額であり、買為替とみなすことができる。

表-13 カルカッタ支店為替取引 (1861年下期)

単位 ルピー

Exchange Received for the Half Year								
Bills on Europe	Drafts on the City Bank	Inland Bills	Drafts on Head Office	Drafts on Singapore	Drafts on Hongkong	Drafts on Australia	Miscellaneous	Total
96,916	60,216	15,446	2,568	4	11,002	1	2,955	189,111
Exchange Paid for the Half Year								
Bills on Europe	Drafts on the City Bank	Inland Bills	Drafts on Head Office	Drafts on Bombay	Drafts on Hongkong	Drafts on Australia	Miscellaneous	Total
17,346	104,351	2,068	3,373	750	11,897		108	139,895

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly branch balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/02/MS 31519

売為替、買為替ともに on Europe, on the City Bank, on the Head Office というように宛先ごとに表示されている。上段 Exchange Received の合計 189,111 ルピーは損益計算書の同じ勘定科目に同額が記帳されており、また下段の Exchange Paid の合計金額 139,895 ルピーも損益計算書の同じ勘定科目に同額が記帳されている。この Exchange Received (売為替) から Exchange Paid (買為替) を差し引いたものが為替取引に伴う利益となるのである。このようにカルカッタ支店の大きな収益源が為替であったことが確認できた。ここではその他の支店の損益計算についての検討は行わないが、カルカッタ支店に見られた損益構造の大きな特徴である為替が大きな収益源であることは、他の支店の損益計算書においても確認することができる。

ここまで見てきたようにロンドン本店関係の計算書類が公開されたことによって、それまで公表 B/S と支店計算書類からチャータード銀行の活動を推し量ることしかできなかったのだが、ロンドン本店を含めた銀行業務の実態を、より総合的に検討することができるようになったといえる。それでは、いくつか課題を絞ったうえで、チャータード銀行の計算書類についてさらに検討を続けることにしよう。

## 2. ロンドン本店の損益計算書と内部積立金 (inner reserves)

### (1) ロンドン本店損益計算書 (1910年)

これまでチャータード銀行ロンドン本店の損益計算については、ロンドン本店関係の計算書類が未公開であったため、正確な損益について確認することができなかった。そのため、公開されていた支店関係の計算書類と、『バンカーズ・マガジン』誌や『エコノミスト』誌に公表された損益計算書から推計するしかなかった。西村閑也氏は『国際銀行とアジア』

第11章「チャータード銀行 1890-1913年」において、ロンドン本店の損益計算の推計を試みられている。しかし、現在公表されているロンドン本店計算書類に計上されている損益計算の金額とは、いくつかの点で大きな乖離が生じている。そこで本節において現在公開されているロンドン本店関係の計算書類を分析することにより、ロンドン本店の正確な損益計算について明らかにしたい。

まず1910年末のロンドン本店の損益計算書を取り上げ、支店関係の計算書類と合わせて検討することにより、公表される損益の算出過程を明らかにしていこう。表-14は『バンカーズ・マガジン』誌に掲載されたチャータード銀行の損益計算書である。チャータード銀行の1910年末の純利益は年間粗利益 539,027 ポンドから本支店の経費など 287,832 ポンドを差し引いた 251,195 ポンドであった。それではこの純利益はどのように算出されたのか、ロンドン本店の計算書類によって確認しておこう。

新しく公開されたロンドン本店計算書類の中で、損益計算にかかわる計算書類は二つある。本店と支店を合わせた Particulars of P & L a/c at Head Office and Branches (表-15, 16) と、本店のみの損益計算書の Particulars of P & L a/c at Head Office (表-17, 18) である。本店と支店を合わせた損益計算書である表-15 と 16 から検討を始めよう。1910年上期の損益計算書である表-15を見ると、貸方に各支店の損益が記載されている。ボンベイ支店からハンブルグ支店までの13支店は利益を計上しており黒字支店であることがわかる。ラングーン支店から横浜支店の5支店は損失を計上している赤字支店となっている。全支店を合わせると 111,655 ポンドの利益を上げている。最下段に記載されているロンドン本店は 38,951 ポンドの利益を計上している。ロンドン本店と全18支店の損益は 150,607 ポンド

表-14 チャータード銀行損益計算書 (1910 年末)

単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

Dr.	Interim dividend at June 30, 1910		78,000
	Bonus to staff		21,000
	Balances proposed to be dealt with as follows		
	Dividend for the half year to date	90,000	
	reserve fund	25,000	
	officers' superannuation fund	10,000	
	bank premises	25,000	
	carried forward to P&L new account	126,363	276,363
	Total		375,363
Cr.	Balance at December 31, 1909	239,168	
	Less dividend for half year to Dec. 31, 1909	- 90,000	
	reserve fund	- 25,000	115,000
	Gross profits for the year	539,027	
	Less expenses of management and general charges	- 287,832	251,195
	Total		375,363

出所：The Bankers Magazine, April 1911, April p.601.

表-15 Particulars of Profit and Loss Account at Head Office, Agencies and Branches  
(本店支店損益計算明細表 1910 年 6 月末)

単位 ポンド (ポンド未満切り捨て)

To Balance		274,775	By Balance of P&L a/c at 31st December 1909		124,168
			Bombay profit for Half Year	13,006	
			Colombo do	19,338	
			Madras do	4,651	
			Calcutta do	20,846	
			Penang do	12,933	
			Singapore do	14,406	
			Kuala Lumpur do	5,567	
			Bangkok do	5,256	
			Saigon do	3,086	
			Manila do	14,040	
			Shanghai do	5,388	
			Tientsin do	670	
			Hamburg do	1,314	
			Rangoon loss for Half Year	- 275	
			Batavia	- 2,923	
			Hongkong	- 1,375	
			New York	- 3,198	
			Yokohama	- 1,079	111,655
			Head Office Profit for Half Year		38,951
Total		274,775	Total		274,775

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly head office balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/03/MS 38430

の利益となる。表-16 の下期損益計算書では、ニューヨーク支店の損失 273 ポンドを除いた 17 支店が利益を計上しており差し引き 97,675 ポンドの利益となっている。本店の利益 28,622 ポンドを加えると総額 126,297 ポンドの利益となる。上期、下期合わせた 1910 年の本店及び 18 支店が得た利益の総額は 276,904 ポンドとなる。この金額から下期損

益計算書 (表-16) の借方に計上されている、上海支店で発生した商品引き渡しの誤りによる支払金額 250 ポンド、税金 5,459 ポンド、それに偶発損失積立金 (Reserve for Contingencies) への繰り入れ 20,000 ポンドを合わせた 25,709 ポンドを差し引くと 251,195 ポンドとなり、この金額は 1910 年末公表損益計算書の純利益と一致する<sup>12)</sup>。

表-16 Particulars of Profit & Loss Account at Head Office and Branches  
(本店支店損益計算明細表 1910年12月末)

単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

To Interim Dividend 30th June 1910	78,000	By Balance of P&L a/c at 30th June 1910	274,775
Bonus to Staff	21,000	Bombay profit for Half Year	1,995
Payment to Fines Dharwar & Co (on account of goods wrongly delivered in Shanghai)	250	Colombo do	15,525
Income Tax	5,459	Madras do	3,819
Transfer to Reserve for Contingencies	20,000	Calcutta do	15,178
		Rangoon do	1,972
		Penang do	11,070
		Singapore do	5,114
		Kuala Lumpur do	6,849
		Bangkok do	5,898
		Batavia do	1,732
		Hongkong do	4,155
		Saigon do	260
		Manial do	13,660
		Shanghai do	4,292
		Tientsi do	1,537
		Yokohama do	3,544
		Hamburg do	1,339
			97,948
		New York loss for Half Year	- 273
Balance	276,363	Head Office profit for Half Year	28,622
Total	401,073	Total	401,073

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly head office balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/03/MS 38430

それでは次にロンドン本店の損益がどのように算出されるのか、表-17, 18のParticulars of P & L at Head Officeによって確認しておこう。表-17はロンドン本店の1910年6月末の上期損益計算書である。貸方に記帳されている、手数料、為替、利子などの収入合計166,134ポンドから借方記帳の諸経費、役員報酬等を差し引いた残高(Balance)38,951ポンドがロンドン本店の上期純利益となる。これが表-15の本支店合わせた損益計算書の半期本店純利益(Head Office Profit for half year)の38,951ポンドと一致している。同様に表-18の下期本店損益計算書の借方にある残高(Balance)28,622ポンドは、表-16の下期本支店損益計算書の貸方に記帳されている本店半期純利益28,622ポンドと一致している。したがって、ロンドン本店の上期、下期合わせた純利益は67,573ポンドであったことが確認できる。これは西村先生が推計されたロンドン本店の損益と大きく乖離している。西村先生は1910年のロンドン本店の純利益を46,400ポンドと推計されており、およそ2万ポンドの差異が生じている。なぜこのような差異が生じたのか、その要因について検討しよう。

西村先生はロンドン本店純利益を次のような方法

で推計されている。「各支店の本店為替勘定振替残高の集計値を全行純利益から差し引いたものが、本店の純損益である」とされ、公表損益計算書に記載されている純利益から、支店純利益を合計した金額を差し引くことによって本店の損益を推計された<sup>13)</sup>。ここで問題となるのは、公表損益計算書に記載されている全行純利益をそのまま本店、支店合わせた純利益であると見なすことができるかどうかである。先に見た表-15と16によって確認したロンドン本店純利益と、西村先生の推計値との差異はおよそ21,000ポンドであった。この差異が生じた要因は、上海支店で生じた損失と税金、そして偶発損失積立金の合計25,709ポンドによるものである。中でも、もっとも大きな要因は偶発損失積立金の2万ポンドであった。これら科目は公表純利益が算出される前にすでに差し引かれているからである<sup>14)</sup>。

この偶発損失積立金にかかわる計算処理について、いち早く指摘したのはイギリス系国際銀行の本格的な研究を先導したジョーンズ(Geoffrey Jones)である。彼の代表的著作の一つである*British Multinational Banking*において、公表純利益(Published net profits)と実質純利益(Real profits)の違いを明確にしたうえで、内部積立金(Inner re-

表-17 Particulars of Profit & Loss at Head Office (本店損益明細表 1910年6月末)

単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

To Balance at Debit of Directors Allowance	3,000		By Balance Credit of Commission	9,701	
Inspectorship	988		Exchange	497	
Office Expenses	18,330		Interest	124,564	
General Charges	7,717		Transfer Fees	48	
Furlough Allowance	3,067		Interest on Securities	30,776	165,589
Special Allowance	1,397		Profit on Redemption of £218,000 National War Loan 2.75% Stock		545
Travelling Expenses	2,697				
Exchnage					
Interest on Deposits	75,699				
Provision on account of Income Tax	6,000	118,897			
Depreciation in value of securities		5,000			
Banks Contribution to Provident Fund		3,284			
Balance		38,951			
Total		166,134	Total		166,134

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly head office balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/03/MS 38430

表-18 Particulars of Profit & Loss at Head Office (本店損益明細表 1910年12月末)

単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

To Balance at Debit of Directors Allowance	3,000		By Balance Credit of Commission	9,209	
Inspectorship	1,187		Interest	112,006	
Office Expenses	18,325		Transfer Fees	40	
General Charges	6,616		Interest on Securities	37,171	158,427
Furlough Allowance	5,107		Profit on sale of sundry securities		516
Specila Allowance	1,533				
Travelling Expenses	1,957				
Exchnage	1,298				
Interest on Deposits	76,439	115,465			
Provision on account of					
Depreciation in value of securities		6,600			
Contingencies		4,277			
others		572			
Banks Contribution to Provident Fund		3,407			
Balance		28,622			
Total		158,944	Total		158,944

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly head office balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/03/MS 38430

erves) の積立金額を一覧表にまとめている<sup>15)</sup>。この表からチャータード銀行の1910年を見ると公表純利益と実質純利益の違いは2万ポンドであり、それは偶発損失積立金なる科目で差し引かれた2万ポンドであることがわかる。西村先生が推計されたロンドン本店の純利益は、公表純利益を基礎に推計されたものであり、それは偶発損失積立金等が差し引かれた後の金額であった。その結果、これら偶発損失積立金等の金額だけ、ロンドン本店の利益は過少

に見積もられることになったのである。これが西村先生の推計値と、実際のロンドン本店の利益との乖離をもたらした最も大きな要因であった。表-19は、1895年から1910年までの5年ごとの損益計算にかかわる数値をまとめたものである。この表から西村先生の推計値と実際のロンドン本店の利益との差異を生み出した最も大きな要因が、偶発損失積立金などの内部積立金であったことを確認することができる<sup>16)</sup>。



表-19 公表純利益と実質純利益 (1895-1910) 単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

	公表純利益	実質純利益	偶発損失積立金	ロンドン本店純利益	ロンドン本店純利益 (西村推計)
1895	90,457	105,456	15,000	-8,054	-25,000
1900	148,247	173,246	25,000	-5,634	-39,500
1905	262,032	302,033	40,000	37,215	-37,100
1910	251,195	271,196	20,000	67,573	46,400

出所：Geoffrey Jones, "British Multinational Banking 1830-1990" Table A5.1. Selected balance sheet and off-balance sheet data. 西村推計値は『国際銀行とアジア』812頁

表-20 カルカッタ支店損益計算書 (1910年末)

単位 ルピー

Dr.		Cr.	
Interest		Interest	72,575
Deiscount		Deiscount	443
Exchange		Exchange	860,665
Commission		Commission	13,245
Brokerage	28,330	Brokerage	
Stamps	27,007	Stamps	
Rebate on London Exchange Account	529,862		
Telegrams	4,082	Telegrams	
Exceptional	2,742	Exceptional	
Adjusting a/c		Adjusting a/c	20,159
General	22,648	General	
Sub Total	614,677	Sub Total	967,090
		Gross Profits	352,413
		Deduct	
		Office Expenses	-97,317
		Charges	-27,415
		Net Profit	227,679
		Net Profit sterling	£15,178

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly branch balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/02/MS 31519

## (2) ロンドン本店とニューヨーク支店の損益計算書

表-17, 18に戻って1910年のロンドン本店損益計算の内容について確認しておこう。ロンドン本店の収益源を見ると為替は上半期497ポンドの利益を生んでいるが、下半期では1,298ポンドの損失となっている。一方、利子については上半期124,564ポンド、下半期112,006ポンドの利益を計上しており、ロンドン本店の最大の収益源であった。一方、1910年最も大きな利益を上げたカルカッタ支店の損益計算書を見ると(表-20)、ここでは為替が最大の収益源(860,665ルピー)となっている。他のアジア支店の損益計算書においても同様に最も大きな収益源が為替であったことを確認することができる。ヨーロッパ・アジア間貿易、アジア域内貿易に伴う為替取引を主たる業務としていたチャータード銀行にとって、為替が大きな収益源であることは容易に理解することができる。しかし表-17, 18で確認したように、ロンドン本店の収益源の最大のものは利子で

あり、アジア支店の為替を主とした収益構造と大きく異なっている。

それではロンドン本店の最も大きな収益源である利子は、どのような取引によって獲得されたのだろうか。この点について、大いに参考となるのがニューヨーク支店の損益計算書類である。表-21はニューヨーク支店の1910年下期の損益計算書である。この表を見るとニューヨーク支店では利子が21,347米ドルで、為替の4,791米ドルを大きく上回り、ロンドン本店と同様に最大の収益源であったことがわかる。幸いなことにニューヨーク支店の計算書類には、この利子に関する明細書が残されている、それが表-22である。受取利息(Received)の最大の科目はAdvance Billsで、31,589米ドルを計上している。その他の利子収入と合わせた受取利息合計35,044米ドルから支払利息(その最大の科目はLondon Exchange a/c, 13,378米ドル)を差し引いた残高(Balance)は21,347米ドルであり、この金

表-21 ニューヨーク支店の損益計算書 (1910 年下期)

単位 米ドル

Dr.		Cr.	
Brokerage	1,217	Interest	21,347
Stamps	331	Exchange	4,791
Rebate	242	Commission	1,282
Rebate on London Exchange a/c	226		
Telegrams	1,190	Adusting a/c	21,771
General	23,933		
Office Expenses	20,189		
Charges	3,188	Balance	1,328
			(£273=485 3/4)
Total	50,519		50,519

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly branch balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/02/MS 31519

表-22 ニューヨーク支店利子勘定明細書 (1910 年下期)

単位 米ドル

Paid		Received	
London Exchange a/c	13,378	Advance Bills	31,589
		Balance at Banks	1,368
NY Debit Balances with Agencies and Branches	258	Agencies and Branches Debit Balances in NY	1,743
Current Deposit a/c	60	Current Deposit a/c	1
To Balance	21,347	Loans	340
Total	35,044		35,044

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly branch balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/02/MS 31519

表-23 チャータード銀行ニューヨーク支店貸借対照表 (1910 年末)

単位 米ドル (ドル未満切り捨て)

Liabilities			Assets		
Current a/c	2,413		Cash on Hand	209	
Traveller's Letters of Credit	31,925	34,338	Cash at Bankers	100,720	100,929
Partial payments o/a BR	1,097		Bills Receivable		475,205
Margins on Bills	2,000	3,097	Current a/c Overdrafts	31,925	
Bills Payable		10,369	Advances	1,409,842	
Usance Drafts on Head Office		100,000	Past due Bills & Advances	306	1,442,073
Due to Agents		580	Due by Agents		41,210
Suspense a/c		1,900	Sundry Debtors	25,293	
Sundry creitors	2,366		Stamps	1,098	25,304
Unclaimed Balances	588	2,954	Office Furniture		4,723
London Exchange a/c		1,259,038	Bills Held o/a HO & others	348,330	
Bills Received for Collection		386,231	do Unaccepted	1,045	
Inter Agency Balance		698,899	do Past Due	36,855	386,231
			Adjusting a/c		21,732
Total		2,497,410	Total		2,497,410

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly branch balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/02/MS 31519

額が損益計算書 (表-21) の貸方に記帳されている利子 (21,347 米ドル) である。したがって損益計算書に記載されている受取利息の多くが, Advance Bills の取り扱いに伴う利子収入であったことがわかる。

それではニューヨーク支店において最大の収益源

となっている Advance Bills とはいかなる手形なのか。表-23 は 1910 年下期のニューヨーク支店 B/S である。資産の部の最大の科目は Advances となっている。この Advances (1,409,842 米ドル) の内容を詳細に記録した書類 (Summary of Drawers of

表-24 チャータード銀行貸借対照表 (1910年末)

単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

Liabilities			Assets		
L 1	Capital	1,200,000	A 1	Cash	2,569,160
L 2	Reserve fund	1,600,000	A 2	Bullion	1,119,718
L 3	Notes in circulation	647,993	A 3	Government and other securities	2,099,239
L 4	Current accounts	8,578,781	A 4	Security lodged against notes issues	364,000
L 5	Fixed Deposits	7,046,507	A 5	Bills of exchange	7,148,577
L 6	Bills payable	1,805,814	A 6	Bills discounted and loans	7,922,001
L 7	Acceptances	955,774	A 7	Liability of customers for acceptances	955,774
L 8	Loans payable	547,750	A 8	Due by agents	153,195
L 9	Due to agents	6,786	A 9	Sundry assets	100,139
L 10	Sundry Liabilities	334,704	A 10	Bank premises	568,667
L 12	Profit & loss	276,363			
	Total	23,000,475		Total	23,000,475

\* Liability on bills of exchange rediscounted, £4,561,810, of which, up to this date, £3,287,409 has run off.

出所: *The Bankers Magazine*, April 1912, p.601

Advance Bills) が残されている。この書類によると Advances は大きく二つの手形に分類することができる。スターリング建手形 (83,310 ポンド = 416,552 米ドル) と米ドル建手形 (993,290 米ドル) である。これら二つの手形には 5% から 6% の利子が付されていた。したがって Advance Bills なる手形はいわゆる利付手形であったことがわかる。このニューヨーク支店の計算書類における Advance Bills の処理を念頭に置いて、次節で検討するロンドン本店 B/S (表-25) を見ると、資産の部 A6 に Advances なる勘定科目を見ることができる。この勘定科目においてロンドン本店が取り扱う Advance Bills が処理されていたと見なすことができるだろう。したがってロンドン本店の損益計算書の利子収入の多くは Advance Bills の取り扱いに伴う利子収入であったと言える。ロンドン本店とニューヨーク支店の損益計算書と貸借対照表の検討を通してロンドン本店とニューヨーク支店では、利付手形の取り扱いに伴う利子収入が両店の業績を左右する大きな業務であったことを確認することができる。

### 3. 20世紀初頭のロンドン本店貸借対照表

#### (1) ロンドン本店貸借対照表 (1910年)

表-24 は『バンカーズ・マガジン』誌に掲載されている 1910 年末のチャータード銀行の B/S である。この公表されている B/S と近年公開されたロンドン本店 B/S との関係について検討することから始めよう。表-25 はロンドン本店 B/S の勘定科目を整理して簡略化 (各勘定科目の左の欄に記した記号は筆者が便宜上付け加えた) したものである。このロ

ンドン本店および各支店 B/S から、どのように公表 B/S が作成されるのか、その処理の過程を確認しておくことにしよう。

ロンドン本店 B/S 負債の部の L1 Capital から L12 Profit & loss a/c までの勘定科目は、公表 B/S 負債の勘定科目の L1 から L12 と対応している。また資産の部の A1 Cash から A10 Bank premises までの科目も、公表 B/S の A1 から A10 にそれぞれ対応している。それでは公表 B/S に含まれない L13 Partial payments o/a BR から L20 Suspense account exchange on loan to Shanghai と、A11 Adjusting a/c から A15 Drafts a/c の勘定科目はどのように処理されるのであろうか。これら勘定科目について参考になるのが、GB (表-26L, 26A) である<sup>17)</sup>。この GB は左端の列を見てわかるように、ロンドン本店および各支店が作成した B/S の勘定科目を一覧表にしたものである。表-26L は負債の部の一覧表であり、表-26A は資産の部の一覧表である (上段に記した記号は筆者による)。まずこの GB と公表 B/S (表-24) との関係について見ておこう。表-26L, 26A の最下段に記されている Total の金額を見ると、負債の部の L1 Capital から L12 Profit & loss a/c までと、資産の部の A1 Cash から A10 Bank premises は公表 B/S の金額とそれぞれ一致しており、当然ながらその総計は公表 B/S の総計 23,000,475 ポンドと一致している (ポンド未満切り捨てによる差異が生じている)。したがって GB の負債の部の L1 から L12 と、資産の部の A1 から A10 は公表 B/S に転記される勘定科目ということになる。それでは公表 B/S に計上されない負債の部の L13 から L16、資産の部の A11, A12 は、どの

表-25 ロンドン本店貸借対照表 (1910 年末) 単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

Liabilities				Assets			
L 1	Capital		1,200,000	A 1	Cash		20,452
L 2	Reserve Fund		1,600,000	A 2	Bullion		76,756
L 4	Current Accounts	990,439		A 3	Government & other Securities		2,082,894
L 4	Payments o/a Acceptances	101,305		A 4	Security hypothecated to Note Issue		364,000
L 4	Short Deposits	202,465	1,294,209	A 5	Bills Receivable	2,826,354	
L 4	Reserve for Possible Bad Debts	300,187		A 5	Do Adjusting a/c	6,393	
L 4	Security Fluctuation Reserve	125		A 5	LCM Bank bill a/c	133,429	
L 4	Reserve for Contingencies	38,954	339,267	A 5	LCM Bank BC a/c	3,321	
L 5	Deposit Receipts		4,096,954	A 5	Java Bank securitiy a/c	50,582	
L 5	Bills Payable	343,754		A 5	Bills with Agents	165,159	
L 5	LCM Bank Acceptance a/c	171,014		A 5	Security Hypothecated to continental	56,471	
L 5	NBS do	61,159		A 5	New York bill a/c	24,938	
L 6	Drafts on Holland unmatured	46,531	622,459	A 5	Hamburg bill a.c	18,008	3,284,659
L 7	Acceptances o/a Customers		898,018	A 6	Current a/c Overdrafts	542,763	
L 8	Loans Received		394,000	A 6	Advances	1,111,278	
L 9	Sundry Agents & Correspondents		6,717	A 6	Fixed Loans	153,906	
L 10	Rebate Adjusting a/c	38,699		A 6	Brokers Loans	468,570	
L 10	Sundry Liabilities	192,148	230,847	A 6	Others	12,315	2,288,745
L 12	Profit & Loss a/c		276,363	A 7	Clients Liability for Drafts against shipments		898,018
				A 8	Due by Agents		77,494
L 13	Partial Payments BR		25,778	A 9	Sundry Debtors		42,937
L 14	Returns for Bills for Collection		121,024	A 10	Bank premises		330,059
L 15	Suspense Account		9,381				
欄外	Security Adjusting a/c		155,002	A 11	Adjusting a/c		567
				A 12	Branches		1,821,440
L 17	Security for Brokers Loans		541,800	A 13	Security held		541,800
L 18	Liabilities on Bills discounted		4,561,810	A 14	Bills discounted		4,561,810
				A 15	Commercial Bk of Scotland Draft a/c	1,042	
				A 15	British Linen Bank Draft a/c	1,010	
L 19	Drafts by Corres		3,850	A 15	NBS Draft a/c	1,797	3,850
L 20	Suspense Account Exchange		18,000				
	Total		16,395,488	Total			16,395,488

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly head office balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/03/MS 38430

ような処理が行われるのだろうか。

負債の部の科目から見ていこう。L13は Partial payments o/a bills receivable である。これは為替手形の部分支払いが行われた場合に処理される科目である。その総額 31,296 ポンドは資産の部の A5 Bills of Exchange においてマイナス記帳することによって処理されている。L14は Partial payments o/a advance bills (合計金額 473,021 ポンド) は、advance bills (利付手形) の部分支払いが行われた場合に処理される科目である。これは同じく資産の部の A6 の Bills discounted and loans においてマイナス記帳されている。利付手形である advance bills の部分支払いが、A5 の Bills of exchange で処理されず、A6 の Bills discounted and loans で処理するのは、利付手形を処理する勘定科目がロンドン本店 B/S (表-25) の A6 に含まれる Advances であることによる。L15 Suspense a/c (166,252 ポンド) は、先に見た L14 に統合されて処理されている。L16 Branch and Other Balances (8,207,922 ポンド) は本店及び他支店に対する債務を計上する勘定科目で

あって、資産の部の A12 Branch and Other Balances には本店及び他支店に対する債権が同額の 8,207,922 ポンド記帳されており、本支店間の債権債務が相殺される関係になっている。資産の部の A11 Adjusting a/c は、負債の部の L11 Adjusting a/c におけるマイナス記帳によって処理されている。以上みてきた公表 B/S に計上されない勘定科目の処理について、次のようにまとめることができる。L13 から L15 は資産の部の勘定科目におけるマイナス記帳によって、また A11 は負債の部の勘定科目 L11 においてマイナス記帳することによってそれぞれ処理されている。L16 と A12 は本支店勘定として相殺されている。公表 B/S と GB の関係について確認することができたので、次に GB と本店及び支店 B/S の関係について見ていくことにしよう。

最上段に記載されているボンベイ支店を取り上げて検討してみよう。表-27は1910年末のボンベイ支店 B/S である。負債の部の勘定科目 L4 から L16 は、GB の負債の部 (表-26L) の勘定科目にそれぞれ

表-26 A General Balance Assets 1910年12月末

単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

	A 1	A 2	A 3	A 4	A 5	A 6	A 7	A 8	A 9	A 10	A 11	A 12	Total
	Cash	Bullion	Gvt Securities	Security deposited	Bills of Exchange	Bills discounted	Liabilities of customers	Due by Agents	Sundry Assets	Bank premises	Adjusting a/c	Branch and Other Balance	Total
Bombay	98,069	56,625	25,587		12,543	619,602			2,981	1,155		640,067	
Karachi	15,382	4,181			149	3,827			92	472		66,218	
Amritsar	16,047	5,038			19	5,083			20	493		6,557	
Colombo	97,171	928			53,542	290,454			57	31,257		60,288	
Madras	53,788	7,643	3,118		13,528	77,306			311	1,081	438	79,451	
Calcutta	79,841	37,830	66,953		77,636	1,267,033			2,635	77,000	1,547	222,126	
Rangoon	132,871	220			15,790	437,947			65	8,858	2,907	132,482	
Penang	210,917	11,157			857	263,601			238	6,566		634,372	
Thaiping	8,637	356			523	14,880			6	6		128,212	
Ipoh	42,925	323			588	80,553			536			140,901	
Singapore	308,986	14,786			29,412	514,273			1,269	1,463		451,380	
Kuala Lumpur	93,862	2,092	58,666		1,726	147,869			22	13,504		392,185	
Klang	13,485				529	10,587				289		32,287	
Seremban	19,270				107	3,224				210		134,223	
Bangkok	171,905	705			1,792	144,871			4,112	24,891		59,888	
Batavia	1,767	5,987			151,420	50,798			362	7,447		556,993	
Sourabaya	32,725	4,122			994	67,632			45	164		9,647	
Medan	48,316	1,928			1,007	64,303				374		98,293	
HongKong	290,591	5,493	2,408		18,816	295,888			348	11,559	712	817,626	
Foochow	11,107				6	13,844						75	
Saigon	270,362	349			8,671	73,015			12,142	3,705		19,910	
Manila	109,767	115			24,819	224,139			230	1,131		286,925	
Cebu	37,742				1,550	22,185			3	465		7,125	
Shanghai	93,512	151,752	186		33,139	289,246			388	812		471,906	
Hankow	46,210	2,310			203	49,757				547		34,989	
Tientsin	68,750	72			9,105	92,540			51	5,806		138,852	
Yokohama	79,858	312	9,855		16,434	232,512			8,644	33,667	5,099	442,672	
Kobe	73,035		1,000		97,125	133,837			5	3,882		214,292	
New York	20,185				95,041	288,414			5,060	944	4,346	85,488	
Hamburg	1,610				65,897	341,262	33,811		4,233	309	1	39,037	
sub Total	2,548,693	314,324	167,773		732,968	6,120,482	33,811		43,313	238,593	15,050	6,404,467	
	2,548,708	314,333	167,775		732,981	6,120,499	33,811		43,327	238,608	15,054	6,404,481	
En Route		728,629	3,571		3,162,232	-14,221		75,701	13,005				
Head Office	20,452	76,756	2,082,894	364,000	3,284,659	2,288,745	898,018	77,494	42,937	330,059	567	1,803,440	
			-155,002		-31,296	-473,021	23,944				15,621	8,207,922	
Total	2,569,160	1,119,718	2,099,239	364,000	7,148,577	7,922,001	955,774	153,195	100,139	568,667		23,000,475	

\* Sundry Liabilities £7,345 deducted from per Contra

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly head office balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/03/MS 38430

表-26 L General Balance Liabilities 1910年12月末

	単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)															
	L 1	L 2	L 3	L 4	L 5	L 6	L 7	L 8	L 9	L 10	L 11	L 12	L 13	L 14	L 15	L 16
Capital	Reserve Fund	Notes	Current a/c	Fixed Deposits	Bills Payable	Acceptance	Loans Payable	Due to Agents	Sundry Liabilities	Adjusting a/c	P&L a/c	Partial Payments B/L	do AB	Suspense a/c	Beneficial/Other balances	
Bombay			755,698	308,888	7,889				4,865	23		64	4,880	1,333	372,988	
Karachi			35,146	13,821	7,235				6			60			41,060	
Amritsar			1,400	4,910	7,893										19,049	
Colombo			371,805	125,418	1,286				3,106	480		40			31,561	
Madras			103,699	63,680	3,481				885			9	16	466	64,425	
Calcutta			1,107,812	374,925	6,713				7,734			264		3,677	331,476	
Rangoon			184,425	129,485	1,982				1,131			527	66	44,087	369,437	
Penang		17,983	439,142	204,216	2,725				661	3,577					459,404	
Thaiping			130,202	21,318	6				8						1,081	
Ipoh			192,010	69,785	204				1,128						2,700	
Singapore		15,640	936,878	301,494	3,007				2,917	95		72		7,584	112,549	
Kuala Lumpur			478,765	145,710	897		153,750		135	1,575					24,177	
Klang			55,049	1,223	72										834	
Seremban			124,394	31,979					329						662	
Bangkok		546	244,929	96,034	970				25,282	32			258	1,575	38,537	
Batavia			235,923	43,140	546				2,509	1,143				1,083	336,681	
Sourabaya			67,155	16,201	75				42						31,858	
Medan			118,377	91,355	131				329						4,031	
HongKong		550,132	285,601	247,862	20,932				3,515			1,059	2,173	30,477	301,690	
Foochow			8,295		1,727				22						14,988	
Saigon			160,962	62,298	101											
Manila			256,871	151,887	10,689				13,214	4,823		15		6,292	146,757	
Cebu			49,940	10,515					6,510	658					214,205	
Shanghai		46,117	364,362	137,457	582				3,543	10,450		176	12,381	5,856	460,015	
Hankow			11,028	13,256	136				4						109,593	
Tientsin		17,572	78,213	107,309	95				8,924				169	35,167	67,728	
Yokohama			111,362	99,535	1,040				2,960				383	16,958	596,817	
Kobe			38,369	33,393	841				30			154	408		449,981	
New York			6,867		2,073				590			619		380	488,949	
Hamburg			4,833	42,445	1,800				2,135			2,453		1,930	396,754	
sub Total		647,990	6,959,512	2,949,539	78,128	33,811	153,750		99,249	22,856		5,512	20,734	156,865	5,491,541	
en route		647,993	6,959,525	2,949,553	78,140	33,811	153,750		99,259	22,862		5,518	20,737	156,870	5,491,558	
Head Office	1,200,000	1,600,000	1,294,209	4,096,954	1,105,214	23,944	394,000	68		3,832			165,006		2,716,363	
			339,267		622,459	898,018		6,717	230,847	-15,621	276,363	25,778	121,024	9,381	166,252	
Total	1,200,000	1,600,000	8,578,781	7,046,507	1,805,814	955,774	547,750	6,786	323,632	11,072	276,363	31,296	473,021	166,252	8,207,922	23,000,475

\*Securities Adjusting a/c £155,002 deducted from Per Contra

出所：London Metropolitan Archives. Half yearly head office balance sheets. CLC/B/207/CH04/05/03/MS 38430

表-27 ポンベイ支店 B/S (1910年末)

単位 ルピー (ルピー未満切り捨て), 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

Liabilities		ルピー	ルピー	英ポンド	For Head Office use only	Assets		ルピー	ルピー	英ポンド	For Head Office use only
L 4	Current Accounts	9,951,173				A 1	Cash in Had	367,428			
L 4	Short Deposits	1,384,300	11,335,473	755,698		A 1	Cash at Bankers	1,103,618	1,471,047	98,069	
L 5	Deposit Receipts		4,633,321	308,888		A 2	Bullion		849,377	56,625	
L 6	Bills Payable		118,345	7,889		A 3	Government Securities		349,817		
L 10	Sundry Creditors	28,672				A 3	Madras Forgery		34,000	25,587	
L 10	Unclaimed Balances	10,316				A 5	Bills Receivable	185,375			
L 10	Madras Forgery	34,000	72,989	4,865		A 5	Foreign Sterling Bills	605			
L 11	Adjusting A/C		356	23		A 5	Up Country Cheque	2,174	188,155	12,543	
L 13	Margins on Bills		969	64		A 6	Current Accounts Overdrafts	4,409,837			
L 14	Shipments		73,200	4,880		A 6	Cash Credits	1,706,000			
L 15	Suspense Accounts		20,000	1,333		A 6	Loans against Shipments	1,584,946			
						A 6	Past due Bills, Loans and Advances	30,402			
						A 6	Fixed Loans	1,218,845			
						A 6	Loans to other Banks	350,000	9,294,032	619,602	
						A 9	Sundry Debtors	34,309			
						A 9	Charges on BC	8,400			
						A 9	Stamps	2,005	44,715	2,981	
						A 10	Office furniture		17,327	1,155	
L 16	Branch Bullion		998,045	66,536	66,536	A 12	Bullion No2 a/c		998,045	66,536	66,536
						A 12	London Exchange Accounts		2,563,032	170,868	170,868
						A 12	Australian Exchange Accounts		66	4	
						A 12	Bills held o/a Head Office and Others	4,164,409			
						A 12	Do Unaccepted	14,153			
L 16	Bills Received for Collection		4,596,782	306,452	306,452	A 12	Do Past due	418,219	4,596,782	306,452	306,452
						A 12	Due by Agents		672,071	44,804	44,804
						A 12	Inter Agencies Balances		771,012	51,400	51,400
	Total		21,849,483	1,456,632	372,988	Total			21,849,483	1,456,632	640,067

出所: London Metropolitan Archives, Half yearly branch balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/02/MS 31519

記帳されている。次に資産の部を見ると A1 から A12 までのすべての勘定科目が GB 資産の部の (表-26A) の各勘定科目に記帳されている。このように支店 B/S の勘定科目すべてが GB にも記帳されており、各支店の負債の部の合計と資産の部の合計はもちろん一致している。

次にロンドン本店の B/S (表-25) と GB の関係を見てみよう。ロンドン本店の負債の部の L1 から L15 と、資産の部の A1 から A12 は、各支店 B/S の勘定科目と同様、ロンドン本店 (Head Office) の行にそれぞれ記帳されている。ロンドン本店 B/S で注目すべきは、GB に記帳されない勘定科目が存在することである。すなわち負債の部の L17 から L20 と、資産の部の A13 から A15 である。A13 の Security held には 541,800 ポンドの記載があり、資産の部には同じ金額が L17 Security for brokers loans に記帳されている。これは資産の部の A6 に含まれている Brokers loans (468,570 ポンド) の貸し付けに対して保有される担保である。その多くは国債や外国政府債などの証券であると思われる。A14 Bills discounted には 4,561,810 ポンドが計上されており、他方、負債の部の L18 Liabilities on bills discounted に同じ金額が記帳されている。こ

れはアジア支店などが現地で買い取ったポンド建手形をロンドン本店が受け取ったもので、それを満期日前に割引市場で売り出したものである。この科目については、公表 B/S には記載されていないが、欄外に注記されている (表-24)。A15 と L19 にも同じ金額 (3,850 ポンド) の記載がある。これはコレス先によって振り出された手形で満期日に支払いが行われるが、当然それは振り出した銀行に対するロンドン本店の債権であるから、同じ金額が資産の部のスコットランド・コマーシャル銀行等の Drafts a/c に計上されるのである。これら勘定科目に記帳される金額を見ると、資産の部と負債の部に同額が計上されており、本店内部で相殺されていることがわかる。ただ L20 の Suspense account exchange on loan to Shanghai (18,000 ポンド) は、資産の部では A12 の Branches に統合されている。そのため本店 B/S の A12 の Branches は 1,821,440 ポンドと記帳されているが、GB の A12 Branch and Other Balances の本店の欄は 1,803,440 ポンドとなっており、ロンドン本店 BS の L20 の 18,000 ポンドが控除されているのである。本店 B/S を公表 B/S 及び GB との関係について検討することにより、本店 B/S の勘定科目を三種に分類することができる。公

表-28 Adjustments of differences between Head Office and branches (1910年12月末)

単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

Liabilities			Assets		
L 6	en route	1,105,214	A 5	Bills receivable en route	3,162,232
L 9	Amounts due to correspondents	68	A 5	Bullion	728,629
L 11	Adjusting a/c branches	3,832	A 3	Government securities	3,571
L 14	Returns en route o/a advance bills	165,006	A 8	Amounts by correspondents	75,701
			A 9	Sundry assets	13,005
			欄外	Sundry liabilities	7,345
L 16	Adjustments of differences	2,716,363			
	Total	3,990,484		Total	3,990,484

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly head office balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/03/MS 38430

表-29 ロンドン本店 BS における主要為替取引勘定の推移

単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

		1861	1865	1870	1875	1880	1885	1890	1895	1900	1905	1910
Liabilities	Bills Payable	251,179	271,435	47,454	120,943	170,688	277,820	1,156,518	342,395	746,542	577,663	343,754
	City Bank Acceptances	1,460,461	2,081,066	1,331,573	2,572,025	1,766,864	1,255,547	2,054,510	663,533	434,325	379,428	171,014
	Drfts on NBS Acceptances				205,240	483,257	348,054	386,311	124,482	49,835	115,741	61,159
	Sub Total	1,711,640	2,352,804	1,379,328	2,838,210	2,420,810	1,881,422			1,230,703		
	Bills Payable en route							1,461,723	850,558	982,301	963,720	
Assets	Bills Receivable	91,516	1,310	63,182	12,106	4,283	3,465	145,652	67,199	336,133	424,907	2,826,354
	City Bank Bill a/c	1,053,706	1,611,061	943,765	1,523,149	984,003	1,505,365	1,252,836	908,766	416,860	482,789	133,429
	Do Foreign Bill a/c				280,341	379,916	201,906	281,965	550,710	223,302	285,009	
	NBS Bill a/c				70,749	507,594	384,000	319,423	135,097	66,059	119,437	
	Sub Total	1,145,223				1,875,798	2,094,737					
	Bills Receivable en route Advances			99,776	172,771	244,255	382,525	1,640,408	1,986,856	2,360,149	3,010,982	1,111,278

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly head office balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/03/MS 38430

表 B/S に記帳されるもの (L1 から L12, A1 から A10), GB において本支店間で相殺されるもの (L13 から L15, A11 から A12), そして本店内部で相殺されるもの (L17 から L20, A13 から A15) である。

これまで GB と本店及び支店の B/S との関係について見てきたが、GB の左端の列には支店、本店と並んで en route なる項目が含まれている。この en route に関して参考となる計算書類がロンドン本店関係史料に残されている。Adjustment of differences between Head Office and Branches (表-28) である。この計算書類の表題が示しているように、この表は各勘定科目の本支店間における差異について調整を行った結果を表示したものである。見られるようにその多くは、為替取引や地金取引にかかわるもので、送付中などの事情により仕向け地と被仕向け地の B/S を閉じる際に生じた違いを調整したものと考えることができる。資産の部の合計 3,990,484 ポンドから負債の部の科目 (L6, L9, L11, L14) の合計を差し引いた残高が Adjustment of dif-

ferences 2,716,363 ポンドとなり、この金額が GB 負債の部 L16 の en route に計上されているのである。

## (2) ロンドン本店 B/S における為替取引にかかわる勘定科目について

これまで 1910 年末のロンドン本店関係計算書類を利用して、公表 B/S との関係について検討を行ってきた。そこで取り上げたロンドン本店 B/S を見ると、創業期におけるロンドン本店 B/S とはかなり大きな違いがあることがわかる。ここでは、チャータード銀行の主たる業務であった為替取引にかかわる勘定科目について検討を試みたい。1861 年末のロンドン本店 B/S (表-3) から読み取れる為替取引を処理する主たる勘定科目は、負債の部の City Bank Acceptances の 1,460,461 ポンドで負債総額の 59.9% を占めており、資産の部では City Bank Bill a/c が資産総額の 43.3% を占めていた。これと同じ勘定科目である 1910 年末のロンドン本店 B/S (表-25) 負債の部の London City Midland Bank



表-30 シンガポール支店の Bills Received for Collection の内訳

単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

Liabilities		Assets	
Bills Received for Collection	112,549	Head Office Advance Bills	76,957
		Bills held o/a HO and Branches	33,803
		Do Unaccepted	315
		Do Past Due	1,473
Total	112,549	Total	112,549

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly branch balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/02/MS 31519

表-31 マニラ支店の Bills Received for Collection の内訳

単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

Liabilities		Assets	
Bills Received for Collection	180,151	Head Office Advance Bills	48,890
		Bills held o/a HO and Branches	129,016
		Do Past Due	2,245
Total	180,151	Total	180,151

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly branch balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/02/MS 31519

Acceptance a/c<sup>18)</sup> は 171,014 ポンドと大きく減少している。また資産の部の London City Midland Bank Bill a/c も 1910 年末には 133,429 ポンドにまで減少している。そこで、ロンドン本店が取り扱う為替取引を処理する主要な勘定科目の推移を、まとめて表示したのが表-29 である。この表を見ると 1880 年代後半まで創業期に見られた基本的な構成が、ほぼ継続していたことを確認できる。その構成が変化し始めるのは 1890 年代からであり、20 世紀に入ると、さらに大きな変化を示している。負債の部では City Bank Acceptances (後の London City Midland Bank Acceptance a/c) が 90 年代から 20 世紀にかけて大きく減少していくが、他方チャータード銀行による Acceptances が 1905 年ころに現れ、Bills Payable と合わせる 1905 年末に 1,433,365 ポンド、1910 年末には 1,235,378 ポンドとなっており、London City Midland Bank Acceptance a/c を大きく上回る金額になっている。資産の部では City Bank Bill a/c が大きな減少を見せ始めるのが 1890 年代以降であり、20 世紀に入るとその傾向がさらに顕著になっていることが見て取れる。このようにロンドン本店 B/S における勘定科目の推移を見ることによって、為替取引、またロンドンの取引銀行との関係が 1890 年代以降大きく変化していることがわかる。

### (3) 利付手形の記帳処理

1890 年代におけるチャータード銀行の為替取引における変化について、さらに究明すべき課題とし

て利付手形の取り扱いを挙げることができる。ロンドン本店における利付手形の扱いは損益計算書について検討した際、ニューヨーク支店における利付手形の記帳処理を参考にして見たように資産の部の Advances (1,111,278 ポンド) において処理されることを確認した。それでは支店 B/S ではどのように取り扱われるのだろうか。ボンベイ支店 B/S (表-27) を例にとって見てみよう。利付手形が処理される勘定科目は負債の部においては Bills received for collection (306,452 ポンド) であり、資産の部には同じ金額が Bills held o/a Head Office (Unaccepted, Past Due を含めた) に計上されている。利付手形を受け取った支店は、まず本店勘定で保有している手形として資産の部に計上するが、その手形債権は本店に属するものであるから、同じ金額を負債の部の Bills Received for Collection に計上することによって利付手形受け取りに伴う債権を相殺しているのである。

それでは資産の部の Bills held o/a Head Office, また負債の部の Bills Received for Collection に計上されている金額を、すべて利付手形とみなすことができるのだろうか。そこで支店 B/S の Bills Received for Collection の内容について吟味して見る必要がある。幸いなことに、この勘定科目の内訳を記載している支店がある。マニラとシンガポールの 2 支店である。この両支店の Bills Received for Collection の内訳を表示したのが表-30, 31 である。この表を見ると、Bills Received for Collection で処

表-32 ボンベイ支店 BS (1905 年末)

単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

Liabilities			Assets		
Australian Bullion a/c	166,777		Cash	29,585	
Bills received for collection	278,418		Balance with other banks	117,222	
Margins on bills	13		Bullion	147,537	
Suspense a/c	7,098		Government & other securities	266,733	
Current a/c	534,807		Bills receivable	246,986	
Do short deposits	16,666		Foreign sterling bills	6,132	
Deposit receipts	434,319		Unaccepted B for collect	404	
Short deposits	173,133		Past Due do	41,145	
			Up country cheques	520	
Bills payable	12,298		Past due Bills & Loans	7,947	
Loans from Madras agency	33,333		Current a/c overdrafts	82,137	
Unclaimed balances	543		Fixed loans	127,877	
			Loans against shipments	243,697	
			Madras loan a/c	70,000	
			Colombo loan a/c	33,333	
			Stamps	76	
			Adjusting a/c	3,676	
Mauritius exchange a/c	365	365	London exchange a/c	142,754	142,754
			Australian do	134	134
			Zanzibar do	23,931	23,931
			Karachi do	4	4
Penang outward a/c	19	19	Colombo outward a/c	375	375
Singapore	93	93	Madras	4,089	4,089
Bangkok	12	12	Calcutta	22,055	22,055
Hamburg	1,796	1,796	Rangoon	105	105
			Batavia	787	787
			Hongkong	912	912
			Manila	16	16
			Shanghai	7	7
			Yokohama	55,574	55,574
			New York	1,677	1,677
Colombo inward a/c	26,756	26,756	Rangoon inward a/c	1,238	1,238
Madras	4,056	4,056	Penang	540	540
Calcutta	5,909	5,909	Bangkok	1,630	1,630
Singapore	6,599	6,599	Hongkong	7,598	7,598
Batavia	375	375	Manila	11	11
New York	8	8	Shanghai	6,972	6,972
Hamburg	6	6	Yokohama	5,798	5,798
			Saigon	13	13
Balances		230,230	Office furniture	2,161	
Total	1,703,409	276,231		1,703,409	276,231

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly branch balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/02/MS 31519

理される取引には本店勘定で処理される利付手形と並んで本店及び他支店から送られてくる代金取立て手形 (Bills held o/a Head Office and Branches) が含まれていることがわかる。さらにマニラ支店における利付手形の取扱高は Bills Received for Collection の 27.1%、シンガポール支店では 68.4%と支店に

よってその割合は大きく異なっている。このように内訳が示されている支店は上記 2 支店のみであるが、利付手形を取り扱う支店はマニラとシンガポールの 2 支店のみと考えることはできない。他の支店では資産の部の Bills held o/a Head Office に利付手形が統合されていたと思われる。

表-33 Advancesの推移 (1870年-1910年) 単位 英ポンド (ポンド未満切り捨て)

	1870	1875	1880	1885	1886	1890	1895	1900	1905	1910
Advances on Shipments Advances	99,776	172,771	244,255	382,525	441,585	1,640,408	819,401	1,400,023	1,522,057	1,111,278

出所：London Metropolitan Archives, Half yearly head office balance sheets, CLC/B/207/CH04/05/03/MS 38430

しかし、このような Bills Received for Collection と Bills held o/a Head Office の債権債務の相殺が支店 B/S できっちりと処理されるようになるのは 1909 年からのことであり、それ以前の記帳処理は、これとは少し異なるものであった。表-32 は 1905 年末のボンベイ支店の B/S である。負債の部に Bills Received for Collection (278,418 ポンド) は見られるが、資産の部に 1910 年末の B/S に見られた Bills held o/a Head Office なる科目は見られない。Bills Receivable を見ると 246,986 ポンド計上されており、1910 年の 12,358 ポンドと比べてかなり大きな金額となっている。おそらく 1905 年の B/S において利付手形が処理される科目は、この Bills Receivable であったと考えられる。というのも、この Bills Receivable と Unaccepted Bills received for Collection (404 ポンド)、Past Due Bills Received for Collection (41,145 ポンド) を加えた 288,535 ポンドから負債の部の Bills Received for Collection を差し引くと 10,117 ポンドとなり、この金額は 1910 年の B/S にある Bills Receivable とそれほど変わらない金額になっているからである。したがって 1909 年より前の支店 B/S における利付手形は、資産の部では Bills Receivable に含めて処理されていたと考えることができる。利付手形の記帳処理について、これまで検討してきたことから、支店 B/S では利付手形の取扱量を正確に計測することはできない。したがってチャータード銀行の利付手形の取扱量は本店 B/S の Advances によって計測するのが妥当であると考えられる。

ロンドン本店 B/S に記載されている勘定科目 Advances の推移を表示したのが表-33 である。この表を見るとロンドン本店 B/S に Advances なる科目が最初に見られるのは 1886 年である。しかし 1885 年以前の BS には、Advances on Shipments という異なる科目の存在を確認することができる。この Advances on Shipments なる科目によって処理される取引がいかなるものか、今のところ定かではない。またこの科目で処理されていた取引がそのまま Advances という科目に変更されたのか、新たな取引を含めたうえでの変更なのか、その理由についても今のところ不明であり、この勘定科目で処理さ

れる取引をすべて利付手形として考えてよいのか、どうかもまた不明である。なぜならニューヨーク支店には利付手形に関する付属書類が残されており、利付手形の取扱高と B/S の Advances の記載金額が一致していることを確認できたのであるが、ロンドン本店については今のところ利付手形の取扱高を確認できる史料が見当たらないからである。このような条件を付したうえで、表-33 を見てみよう。科目名が Advances on Shipments であった 1867 年から 1870 年代にかけて、およそ 10 万ポンドから 20 万ポンドで推移していたのが、1885 年になると 40 万ポンド近くまで増加しており、科目名が Advances に変更される 1886 年以降急速な増加をみせている。さらに 1890 年以降を見ると、大きな落ち込みを見せた 1895 年を除くと 100 万ポンドを大きく上回る金額になっていることがわかる。Advances on Shipments で処理されていた取引がいかなるものであるかは今のところ不明であるが、科目名が Advances に変更される 1886 年ころから利付手形の取引が始まり、1890 年代以降急速に普及していく過程を見て取ることができる。

#### (4) 内部積立金 (Inner reserves) の記帳処理

本稿 2 の「ロンドン本店の損益計算書と内部積立金 (Inner reserves)」において、損益計算書及びその付属書類を利用することによって内部積立金<sup>19)</sup>の存在を確認することができた。ここでは B/S 関係の計算書類における内部積立金の取り扱いについて見ておこう。1910 年末の計算書類において内部積立金として確認できるのは、ロンドン本店 B/S (表-25) における L4 の Reserve for contingencies (偶発損失積立金) である。この科目には 38,954 ポンドの記帳が見られ、その上に記載されている Reserve for possible bad debts (貸倒引当金) と Security fluctuation reserve (証券価格変動積立金) とを合わせた合計金額 339,267 ポンドが内部積立金として確認できる。表-26L の GB を見ると L4 の列の Head Office に、同額の 339,267 ポンドが記帳されている。すなわち GB の段階で、Reserve for contingencies をはじめとする内部積立金は L4 の Current Accounts に含まれることになり、公表 B/S (表-24) においても L4 の Current Accounts に含めて処理

されているのである。しかし、このような記帳処理がなされるのは1909年以降のことであり、それ以前は、これとは少し異なった処理が行われていた。1905年末のロンドン本店B/Sの負債の部にSuspense Account No.2なる科目があつて365,000ポンド記帳されているのが確認できる。GBにおいても同じ科目名のSuspense Account No.2があつて、もちろん同じ金額の365,000ポンドが計上されている。そして本店と支店を含めたSuspense Accountの合計81,150ポンドを加えた金額は446,150ポンドとなっている<sup>20)</sup>。これは、1905年末の公表B/S負債の部のSundry adjustments and other accounts including provision on account of bad and doubtful debts and other contingenciesなる科目に同額の446,150ポンドが記帳されているのを確認することができる。しかし、この勘定科目が公表B/Sに記載されるのは、1905年から1909年までの期間であつて、先に見たように1910年からはCurrent Accountsに統合されることになるのである。

## むすび

本稿の課題は近年公開されたチャータード銀行のロンドン本店関係の計算書類について、その内容とそこから読み取ることのできる業務について解明することであつた。そこで創業期の1861年と20世紀初頭の1910年の計算書類を用いて、ロンドン本店およびアジアの支店が作成した各店舗のB/Sと、これら本支店のB/SがどのようにGBに統合されていくのか、また『バンカーズ・マガジン』誌等において公表されるB/Sが、これら行内計算書類とどのような関連を持つのかについて、主たる勘定科目に焦点を当てて検討してきた。そこから各店舗内で相殺される勘定科目、また本支店間において相殺される科目を導き出し、最終的に公表B/Sへとつながる過程について明らかにすることができた。また、チャータード銀行の主たる業務であるヨーロッパ・アジア間の為替取引については、ロンドン本店とアジアに展開する支店の計算書類を突き合わせることによって、その全体的な業務をとらえることができる。本稿では為替取引を処理する勘定科目を中心に、ロンドン本店のB/Sとアジア支店のB/Sおよび付属書類を含めた検討を行うことによって、利付手形をはじめとする為替取引の記帳処理の仕方について、その一端を解明することができた。またロンドン本店の損益計算書を分析することによって、内部積立

金 (Inner reserves) についても正しく把握することができ、ロンドン本店の正確な損益について知ることが可能となり、さらにこの内部積立金が行内計算書類においてどのように取り扱われるのか、その記帳処理についても明らかにすることができた。

しかし本稿が取り上げた主たる計算書類は、先にも述べたように1861年と、1910年というごく限られたものにすぎない。各計算書類また計算書類に記載される勘定科目を時系列で観察する作業、またロンドン本店とアジアに展開する支店、さらには国際金融市場として成長を遂げていくニューヨーク、ハンブルグの支店を含めた地理的広がりを視野に入れた作業も重要な課題として残されている。国際銀行に関する研究において、チャータード銀行のロンドン本店を含めた計算書類を検討する作業は、これからも、さらに多くの情報を提供してくれるものと思われる。

## 注

- 1) 西村閑也・鈴木俊夫・赤川元章編著『国際銀行とアジア 1870-1913』(慶応義塾大学出版会, 2014年)
- 2) Shizuya Nishimura, Toshio Suzuki & R.Michie (eds.), *The Origins of International Banking in Asia* (Oxford University Press, 2012)
- 3) Hubert Bonin, Nuo Valerio & Kazuhiko Yogo (eds.), *Asian Imperial Banking History* (Pikering & Chatto 2015)
- 4) 西村閑也「第11章 チャータード銀行 1890-1913年」前掲書『国際銀行とアジア』802頁。
- 5) チャータード銀行の創設から開業に至る過程については、Compton Mackenzie, *Realms of Silver: One hundred years of banking in the East*, Routledge & Kegan Paul, 1954. pp.20-28. を参照されたい。
- 6) チャータード銀行とシティ銀行との関係については、鈴木俊夫「第4章 国際銀行とロンドン金融市場」前掲書『国際銀行とアジア』268-270頁が詳しい。
- 7) チャータード・マーカンタイル銀行に関する計算書類は、HSBC Group Archives に所蔵されている。
- 8) チャータード・マーカンタイル銀行の本支店バランスシートとNominal Accountの関係については鈴木俊夫前掲書『国際銀行とアジア』245-250頁に明解な図とともに詳しい説明がある。また勘定科目については北林雅志「19世紀後半アジアに

- おけるイギリス植民地銀行の支店活動」『札幌学院商経論集』第18巻第2号(2001年)35-38頁を参照されたい。
- 9) 為替銀行特有の勘定科目である当方勘定, 先方勘定については安東盛人『外国為替概論』(有斐閣1957年)384-6頁を参照されたい。
- 10) このように本支店間勘定の残高の不一致が公表BSに記載される経緯については北林雅志「19世紀後半におけるチャータード銀行の本支店勘定」札幌学院大学『経営論集』No.2(2010年)を参照されたい。またチャータード・マーカントイル銀行では先に見たNominal Accountにおいて本支店間の債権債務はすべて相殺されており, その結果公表BSにおいて本支店勘定の残高の記載は見られない。
- 11) 安東盛人 前掲書『外国為替概論』407頁。
- 12) 表-16借方に記帳されている中間配当78,000ポンドとスタッフに対するボーナスの支払い21,000ポンドは公表損益計算書(表-14)において処理されている。Particulars of Profit and Loss Account at Head Office at 31st December 1900.
- 13) 西村閑也前掲書『国際銀行とアジア』811頁。
- 14) 西村先生も「ただし, 証券発行益は, 秘密積立金に積み込まれることが多かったと思われるので, 本店純益は, その分だけ過小評価されているであろう。」(同上書811頁)と言及され, この種の積立金の処理によって本店純益が影響を受けると考えられていたようであるが, Reserve for Contingenciesの名称で積み立てられる金額は西村先生の想定を大きく上回るものであった。
- 15) Geoffrey Jones, *British Multinational Banking 1830-1990*, Table A5.1. Selected balance sheet and off-balance sheet data.
- 16) 表-19では1900年のロンドン本店の損益は5,634ポンドの赤字となっている。この赤字となった最大の要因はマニラ支店で発生した損失の一部5万ポンドをロンドン本店の損益計算において処理したことによるものである。
- 17) 創業期におけるGBはB/Sの形式であったが, 1910年のGBは表-26L,26Aのように資産と負債の一覧表にまとめられている。
- 18) 1898年シティ銀行はミッドランド銀行と合併して行名がロンドン・シティ・ミッドランド銀行に変更された。A. R. Holmes, Edwin Green, *Midland 150 years of banking business*, (B T Batsford Ltd, 1986) pp.96-97.
- 19) G. Jones は前掲書 *British Multinational Banking* において Inner reserves という用語を使用している。また西村先生は前掲書『国際銀行とアジア』において「秘密積立金」という用語を用いておられる(784頁)。本稿では本文で指摘するように, これら積立金は1905年から09年まで公表B/Sで独立した科目として公表されていることから, 「内部積立金」という用語を用いた。
- 20) Suspense Account No.2なる科目がGBや本店B/Sに現れるのは1889年上期からである。それ以前は, Suspense Accountに含めて記載されていた。そしてロンドン本店損益計算書の記述を見ると, 例えば1895年下期では Amount transferred to Suspense Account to meet Contingenciesとして15,000ポンドが計上されている。先に見たロンドン本店B/Sの内訳に含まれていた貸倒引当金(Reserve for possible bad debts)という科目名は1910年本店B/Sで初めて確認できる。

(きたばやし まさし 金融システム論)

